

1 取組名称

初年次教育課程における学外体験型プログラム:基礎ゼミナールでの取組み

2 取組組織等

全学的組織。基礎ゼミナール担当教員を中心に基礎教育部会、基礎ゼミ部会と連携し、学外体験型教育プログラム実施に関わる各分野教員と協働して組織する。

3 取組実施代表者名

都市教養学部・理工学系・生命科学コース・教授・可知直毅

4 取組期間

2年間（平成23年度～平成24年度）

5 取組の概要

基礎ゼミナールに「学外体験型、宿泊交流型」の学際・分野横断的授業を取り入れることで、学生のマジョリティーを占める『自ら学び、考え、行動する』きっかけをつかめずにいる学生達」を初年時に効果的に集中教育する。

各基礎ゼミナールの授業のテーマとして取り上げられている自然環境、遺跡・史跡、生活・文化の現場や農・水産業や工場の生産現場、行政・医療・福祉などの現場を直接訪ね、その場で課題を発見しつつ討論するという実践的スタイルの授業を取り入れることにより、基礎ゼミナールの学習目標である課題解決に必要な技法の体験的習得を図るとともに、異分野学生が担当教員をはじめ現場の様々な人々と集中的に時空間を共有する事で、豊かな人間関係を築く力を涵養するという学習目標の達成を目指す。

各分野、複数の基礎ゼミナール担当教員の協力を得て、平成23年度は単位外で休日もしくは夏休み期間中に、複数の基礎ゼミナール科目合同あるいは単独で「学外・宿泊・集中型」の「現場体験、討論会、発表会」を実施する。この中で、異分野の学生、教員が寝食を含めて時空間を共有することにより、これまで個々の基礎ゼミの授業で培ってきた能動的学習姿勢や、課題に取り組む技法、コミュニケーション力などの実践的な応用展開を図るとともに、その力を試し自己評価する場とする。

平成24年度は、23年度の実施実績の評価に基づき、基礎教育部会、基礎ゼミナール部会と連携し単位外でのプログラム実施に加え、いくつかの基礎ゼミナール科目の所定講義時間の一部を「学外体験・宿泊交流型」授業として実施することを目指す。

